2018 年 3 月 18 日

平成 29 年度学位授与式告辞(概要)

学長　山本　和人

春の陽光は力強く、確実に、生きとし生けるものに、エネルギーを与えています。学内のあんずの花は満開となり、桜も、今日この日を待ちわびたように、つぼみの色を染めています。

本日、平成 29 年度、東京家政大学大学院、東京家政大学、東京家政大学短期大学部の学位授与式を挙行するにあたり、関係各位をはじめ、多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、また、ご家族の皆様のご列席を頂き、心より御礼を申し上げます。誠にありがとうございます。

それぞれの課程を修了し学位を得て、本日、修了・卒業される皆さんに、敬意を表するとともに、心よりお祝いを申し上げます。学位取得、誠におめでとうございます。

今回は、4 年前に開学した、看護学部看護学科、子ども学部子ども支援学科から、初めての卒業生の誕生です。第 1 期生として、後に続く後輩たちの先頭に立った活躍を期待いたします。

さて、皆さんは本日より、本年創立 137 年となる、歴史と伝統ある東京家政大学の卒業生の 1 人となります。卒業に当たり、少しだけ振り返っておきたいと思います。

本学の校祖・渡邉辰五郎先生が 1881 年（明治 14 年）に「和洋裁縫伝習所」を開かれたとき、女性の社会的地位は低く、社会的活躍の機会はほとんどありませんでした。そのような時代に、先生は、女性の「自主自律」を掲げ、和裁・洋裁の技術を身につけ、職業人として自立できる道を開かれました。科学的な知識と確かな指導技術を持った、女性の指導者・教育者を育てようとの考えのもと、行動し、教育機関を立ち上げられました。先生は、裁縫雛形という教授法を編み出し、教科書を考案したことなどでもよく知られています。その見識と実行力は、今考えても、高い先見性と確かな技術、そして、すぐれた指導力に支えられたものであることが分かります。

その後、東京裁縫女学校、東京女子専門学校などを経て、第 2 次世界大戦後は、東京家政大学、および、東京家政大学短期大学部となって、再出発しました。校祖の意思を引き継ぐ、開学当初の学長であった青木誠四郎先生は、「日本の女性の不幸を無くし、女性を幸せにする」ために、「愛情・勤勉・聡明」を生活信条とする教育、そして、「女性の専門性を高める」教育を進めてきました。

それらの伝統を受け継ぎ、大学院・人間生活学総合研究科の博士課程、また、修士課程は 6 専攻をもち、4 学部 11 学科、短期大学部 2 科の体制で今日を迎えています。「衣・食・住」の生活を支える学問を教授する大学としてスタートしたのち、生命、生活、人生といった研究についての専門性をもつ学生を育て、「人の生を支える大学」として、発展をして

きました。
本年4月1日からは、新たにリハビリテーション学科を、理学療法学専攻・作業療法学専攻の2専攻で、狭山校舎に開学し、大学は、4学部12学科の総合大学になります。
大学は現在、大学教育改革の真っ只中にいます。文部科学省の高等教育改革の政策は、私立大学にも対応が求められ、その動きに合わせつつ、本学らしい教育、本学らしい研究の推進を検討しています。また、附置機関の機構改革も進めています。
その中の1つとして、生涯学習の時代となった今、卒業生や社会・地域の方々が、いくつになっても、いつでも必要なことが学べる大学として、リカレント教育が可能となるような仕組みも作っていきたいと考えています。また、改革とその成果は、社会に発信していく予定です。
これからも、社会から求められ、選ばれる東京家政大学となるよう、引き続き、教職員一丸となって、「人の生を支える大学」としての教育と研究に取り組んでまいります。卒業生の皆さんには、これからもぜひご注目頂き、ご声援・ご支援をお願いしたいと思います。
本日卒業される皆さんが迎えることになるこれからの時代は、基調は少子高齢社会が続くものの、科学がさらに進み、人工知能AIの進展やソサイエティ5.0といわれる超スマート社会の実現、長寿化に伴う人生百年時代の到来などが、予想されています。実際、皆さんが入学された年には、人型ロボットの販売が開始されています。自動運転の車も夢ではなくなっています。それに伴い、これまでの考えや価値観では、解決できない課題が多く出現してくるものと思われます。そのような時代であるからこそ、本学が掲げる「愛情・勤勉・聡明」の教育は、卒業生一人一人の人間性に支えられ、一人一人に体現されることによって、今後一層の輝きを増してくると考えています。
卒業生の皆さん、皆さんの活躍はこれからが本番です。本学で学んだことを誇りに、一人一人が身につけた知識・技術・態度を使い、発展させ、時に学び、それぞれの場で、人の生、生命・生活・人生を支える、輝くお一人お一人になっていただきたい。
現実の社会は多様です。学んだ知識・技術がうまく生かせない場合もあることでしょう。さらに学ぶ必要を感じるときがあるでしょう。その時は、是非、母校である本学を訪ねてください。きっと皆さんの力になることができます。また、素晴らしい活躍をされたときは、ぜひ、大学までお知らせください。
最後になりましたが、物心ともに今日まで支えてこられた、ご家族やご関係の皆様に、改めて、御礼とともに、心よりお喜び申し上げます。
本日卒業される皆様の前途が、素晴らしいものであることをお祈り申し上げ、学長告辞といたします。本日はたいへんおめでとうございました。